

私のふるさと

冒険心に
突き動かされて

澤田 好男

私は、大阪市内の鶴橋駅の近くの病院で生まれました。居住地は生野区です。市内の中心部にもかかわらず、300坪を超えるほどの大きな敷地を有する家に生まれました。

街には材木問屋が並び、どぶ臭い川が何本か流れていました。自然との関わりはなさそうな地域でしたが、庭には、八朔・甘柿・金柑・グミなど実のなる木があったり、畑で家庭菜園をしたりしていました。祖父の趣味が盆栽で、たくさんの鉢植えがありましたし、メダカがいる睡蓮鉢がいくつもあったり、文鳥・十姉妹・カナリヤ・インコを何羽も飼っていたりしました。犬は常に2頭はいました。このように、土や生き物に触れられる環境でありました。

人と関わるよりも、自然と関わる方が気楽だという性質は、このころに培われたように思います。

小学校は、天王寺区の生魂小学校に越境していました。「環状線の内側の方がエリート」というような意識が親にはあったのだろうと推測します。

幼稚園の友だちと離れ、遠くの学校に通うことは、私にとっては寂しく迷惑なことでした。しかし、小学校1年生から、市バスや地下鉄を利用して通学したことは、私の冒険心を育てる意味では大いに役立ったと思います。切符や料金の受け渡しさえできれば、どこへでも行けるのです。たまに居眠りしてしまい、終点の生野車庫停で運転士さんに起こされるのも、今から思えば少しずつ世界を広げることになっていました。

私には、第2・第3のふるさとがあります。

ひとつは、ニュージーランドのオークランド市にあるテアタトゥ・サウスという小さな街です。大学を卒業する直前に、4週間、ホームステイをしました。スバルのレーシングドライバーをする父と、教員をする母、そして、2人の子供のいるお宅でした。平日は近くの小学校内にある教室で英語を学び、週末には文化体験や観光に出かけた

りしました。原住民マオリ族の村を訪れたことや、独特の植生を持つニュージーランドの山林を歩くブッ



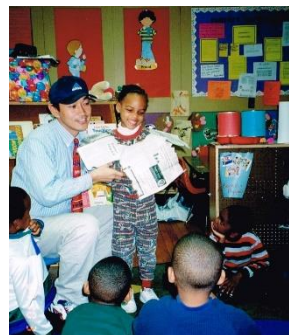
NZ オークランドで乗馬

シュウオークにはとても興奮しました。

2017年に、29年ぶりに同地を訪ねたことがありました。街並みが少し変わっていて、家は見つけられませんでした。小学校は同じ場所にあり、事情を話すと、快く受け入れてくださり、見学や交流をさせていただくことができました。

もうひとつは、アメリカ・バージニア州のファンビルという田舎街です。31歳の時に、文部省(当時)による海外派遣教員に選ばれ3カ月間滞在することができました。こちらもホームステイで、高校教員の父、小学校教員の母、小学生の双子のいるお宅でした。

毎日、お母様と小学校に通い、授業を見せてもらったり、授業をさせてもらったりしました。家庭訪問に同行させてもらったり、ボランティア活



ストーリーテリング

動に参加したり、教師人生にとってとてもプラスになる経験を沢山することができました。

こちらには、未だ再訪は叶っておりませんが、いつか行ってみたいと思っています。

ついでに、もうひとつ挙げるとすれば、中国青島市です。日本人学校教員として、2007年から3年間駐在させてもらいました。この時出会った仲間とは、今も交流を続けています。

さて、上記のように、私が知らない場所に行きたくなったり、新しいことに興味を持ったりするのは、幼少の頃の体験がバックボーンにあるのだろうと思うのです。「私のふるさと」が今も私を突き動かしているようです。